

小山市に影響のある地震

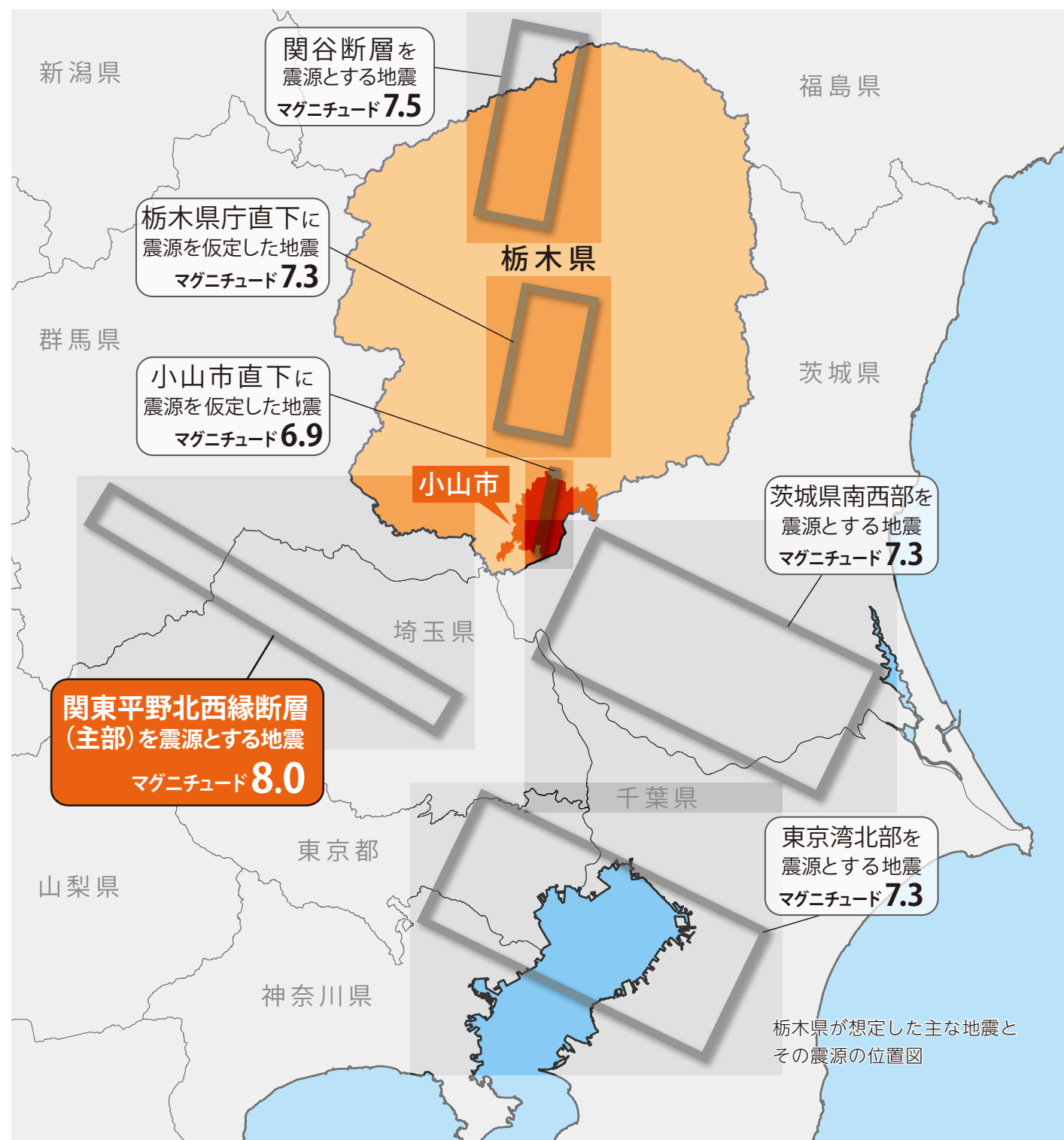
！ 関東平野北西縁断層で地震が起こった場合、市内は最大震度6強が想定されている

！ 強い揺れが想定される地域では、液状化の危険度も高くなる

\\ 小山市内で想定されている大きな地震 //

栃木県では県内に甚大な被害をもたらす地震として、4つの活断層等による地震と、どこでも起こりうる直下の地震を対象として、平成25年度に地震被害想定調査を実施しました。

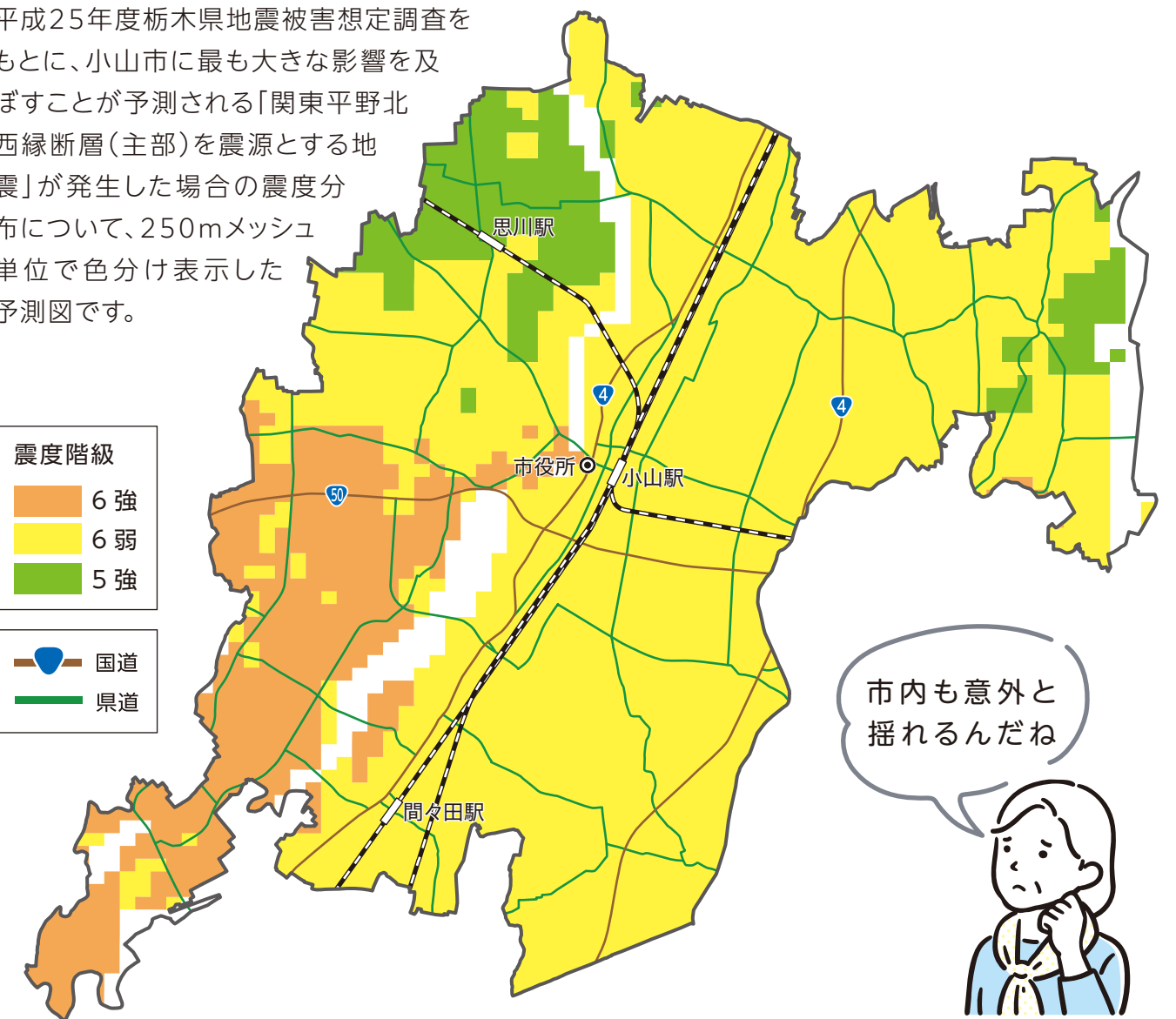
これらの地震のうち、小山市に最も大きな影響を及ぼす地震は、「関東平野北西縁断層(主部)を震源とする地震」で、最大震度6強が想定されます。



震度マップ

震度分布

平成25年度栃木県地震被害想定調査をもとに、小山市に最も大きな影響を及ぼすことが予測される「関東平野北西縁断層(主部)を震源とする地震」が発生した場合の震度分布について、250mメッシュ単位で色分け表示した予測図です。



震度と予想される現象

- 震度7**
 - 固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたり、飛ぶこともある
 - 耐震性が低い建物は、傾くものや倒れるものが6強よりさらに多くなる
- 震度6強**
 - 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる
 - 耐震性が低い建物は、傾くものや倒れるものが多くなる
- 震度6弱**
 - 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある
 - 耐震性が低い建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたり倒れるものもある
- 震度5強**
 - 固定していない家具が倒れることがある
 - 棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる
- 震度5弱**
 - 電灯などのつり下げ物は激しく揺れる
 - 棚にある食器類や書棚の本が落ちることがある

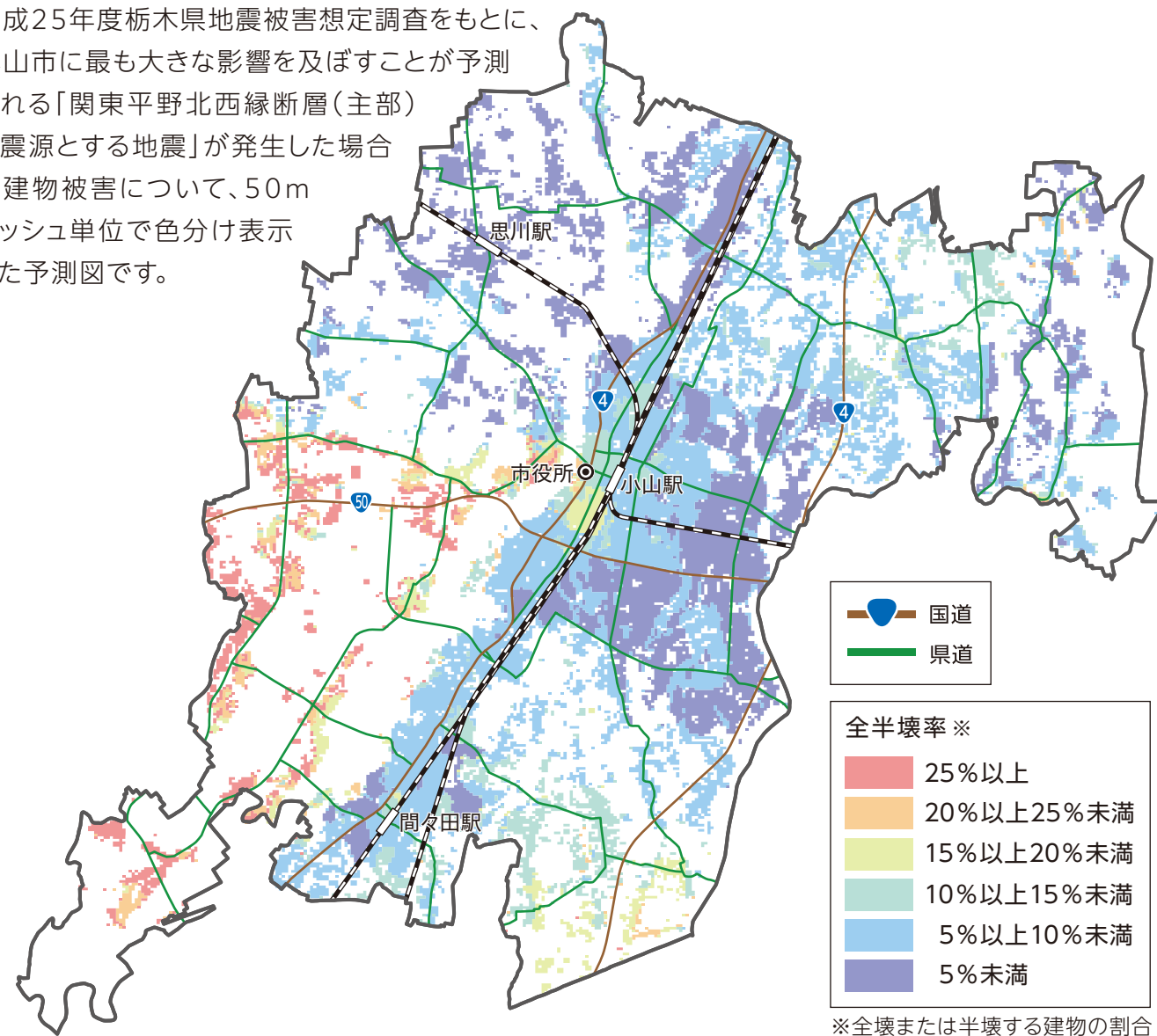


気象庁震度階級関連解説より作成

建物被害マップ

建物被害分布

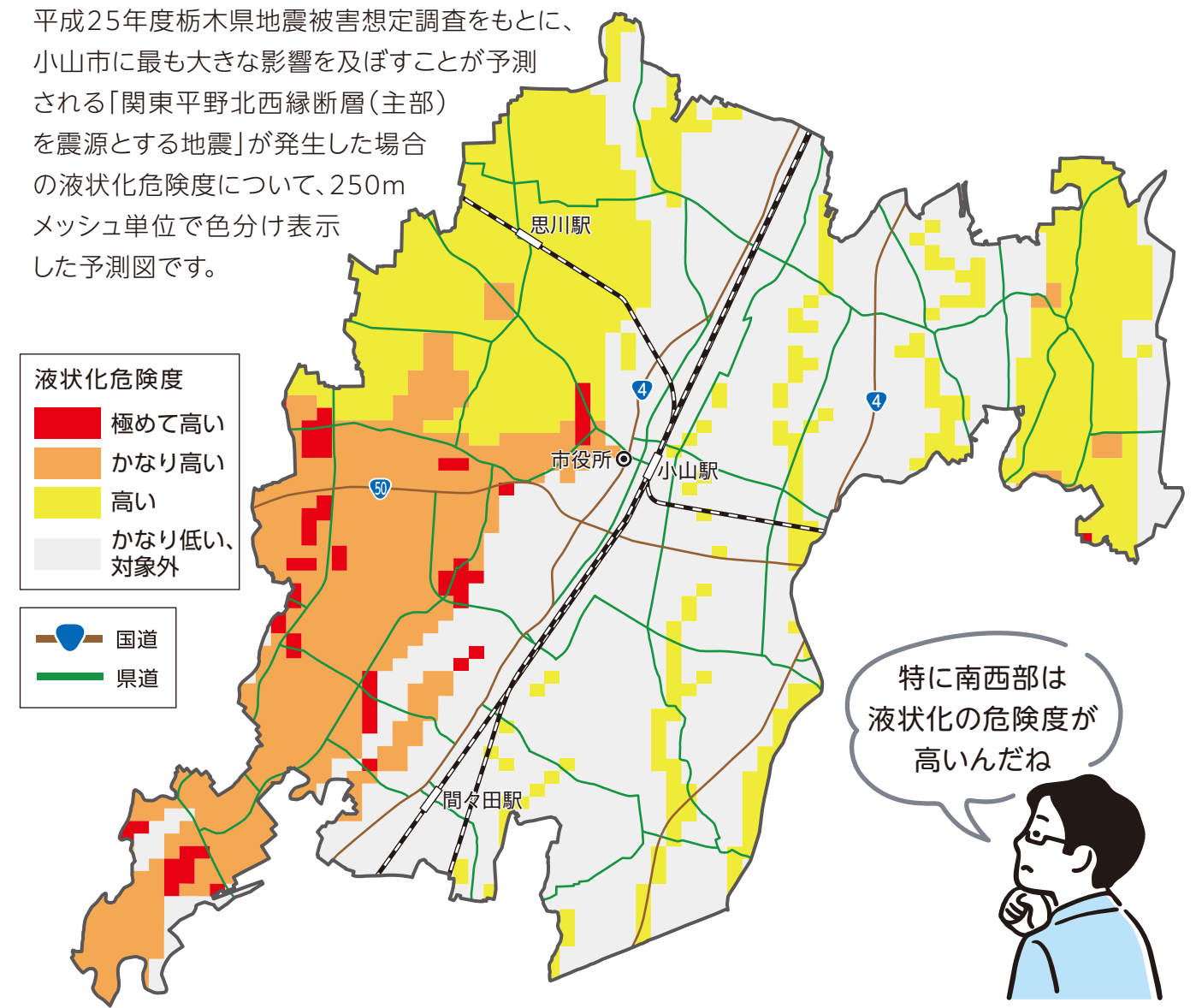
平成25年度栃木県地震被害想定調査をもとに、小山市に最も大きな影響を及ぼすことが予測される「関東平野北西縁断層(主部)」を震源とする地震が発生した場合の建物被害について、50mメッシュ単位で色分け表示した予測図です。



液状化危険度マップ

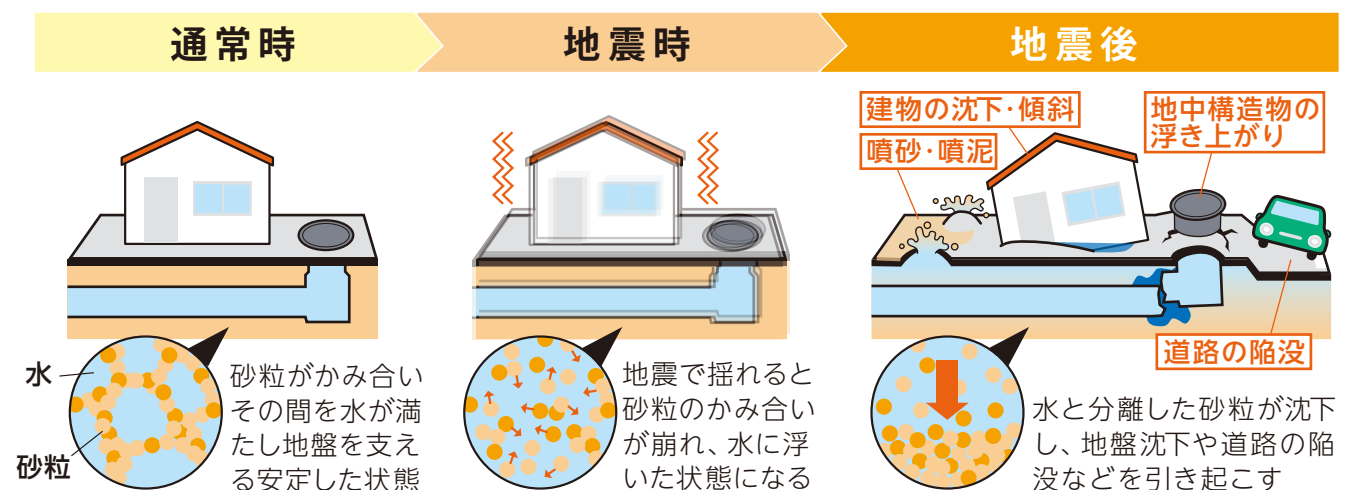
液状化危険度分布

平成25年度栃木県地震被害想定調査をもとに、小山市に最も大きな影響を及ぼすことが予測される「関東平野北西縁断層(主部)」を震源とする地震が発生した場合の液状化危険度について、250mメッシュ単位で色分け表示した予測図です。



液状化被害の例

液状化現象とは、地震の振動によって地盤が液体状になる現象です。



地震に強い安全なまちづくりを進めています

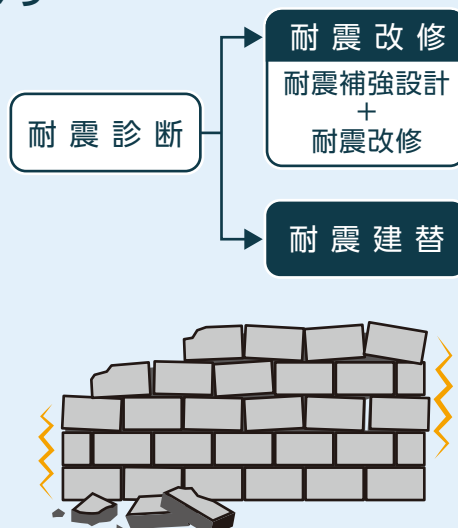
木造住宅耐震対策補助制度

昭和56(1981)年5月31日以前の旧耐震基準で建てられた木造住宅に対して、木造住宅耐震対策助成事業を実施しています。

ブロック塀等安全対策補助制度

道路(特に通学路)に面した危険なブロック塀等の撤去や、撤去及び軽量の塀等を設置する工事に対して、補助制度を設けています。

詳しい内容については、市のホームページを確認してください



自宅の安全対策

- ！地震時に、家具・家電類などは凶器となるのでしっかりと固定する
- ！家の中とまわりを安全な状態にして、被害が少なくなるように備える

被害を減らすために

- ・家の中に、家具のない安全なスペースを確保する
- ・寝室や子ども・高齢者などがいる部屋には、倒れそうな家具を置かない
- ・家具の転倒や落下を防止するための対策を行う
- ・塀の破損、ひび割れ等を修理する。また、ベランダには落ちやすいものを置かない

本棚・タンス

ベッドの上や出入口を塞ぐ方向へ倒れない位置に置き、固定器具を設置する

非常用照明

停電に備えて、枕元に明かりを用意する

石油ストーブ

対震自動消火装置のあるものを使用し、ストーブの上に洗濯物を干さない

照明器具

吊り下げ式タイプのものは、鎖やワイヤー等で複数箇所を天井に留める

家電

固定して転倒防止、扉にストッパーを設置する

食器棚・収納棚

固定器具を設置する。開き戸にストッパーを設置し、ガラス戸には飛散防止フィルムを貼り、食器の下にはすべり止めシートを敷く

スリッパ

足のけが予防に、寝室に置いておく

非常用持出袋

避難時に取り出しやすい場所に置き、定期的の中身を確認する

玄関・廊下

避難経路になるので余計なものを置かない

テレビ・テレビ台

低い位置に置き、金具や粘着マットなどで固定する

窓ガラス

飛散防止フィルムを貼る

ガスボンベ

転倒しないよう鎖等で固定する

地震タイムライン

地震発生

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報が発表された場合

あわてずに、まず身の安全を確保する

まず低く、頭を守り、動かない（シェイクアウト）
倒れてくる家具や落下物に注意する



屋内

頭を守り、丈夫な机の下などで安全を確保する

屋内

落下物に当たる危険があるので、屋外に飛び出さない

屋内

無理にコンロの火を消そうとしない

屋外

ブロック塀、自動販売機などから離れる

屋外

看板や割れたガラスの落下に注意し、鞆などで頭を守る

エレベーター

すべてのボタンを押して、止まった階で降りる

公共施設

人が多い場所では出口に殺到せず、集団パニックに注意する

鉄道・バス

つり革、手すりなどにしっかりつかまり、係員の指示に従う

自動車

ハザードランプを点滅させて徐行し、道路の左側に停車する

落ち着いて身の回りを確認し、二次災害を防ぐ

ただし、危険が迫っている場合は一刻も早く避難！！

火の元を確認

調理器具や暖房器具のスイッチを切り、ガスや灯油漏れを確認する

落ち着いて初期消火

出火した場合は速やかに消火し、危険を感じたら無理せず避難する

家族の安全を確認

離れている場合は災害用伝言板やSNSなどで安否を確認する

スリッパや靴を履く

ガラス破片などが足元に散乱している場合がある

出口を確保

部屋の窓や玄関のドアを開ける

正しい情報入手

テレビ、ラジオなどで正しい情報を確認する

身の回りの安全が確認できたら

近所の人たちの安否を確認

お互いに声を掛け合って安否を確認し、高齢者や体の不自由な人たちを安全な場所へ誘導する



協力して救護・初期消火

けが人の救護や消火活動は近隣住民や自主防災組織など、地域で協力して行う

防ごう！通電火災

「通電火災」は、地震の影響で配線が損傷するなどの状態のまま通電することで発生します

- ① 避難時には、ブレーカーを落とす
- ② 通電前に室内外の電線や配線の損傷などを確認する
- ③ 通電前に電化製品のスイッチ（切）などを確認する